



誠心ファミリー 第4号

発行日 平成9年4月1日
 発行者 誠心会会長 下采一彦
 呉市本通6-2-23 ☎0823-25-0460

3月定例会 予算委員会

小中学校適正再配置の加速化を!!

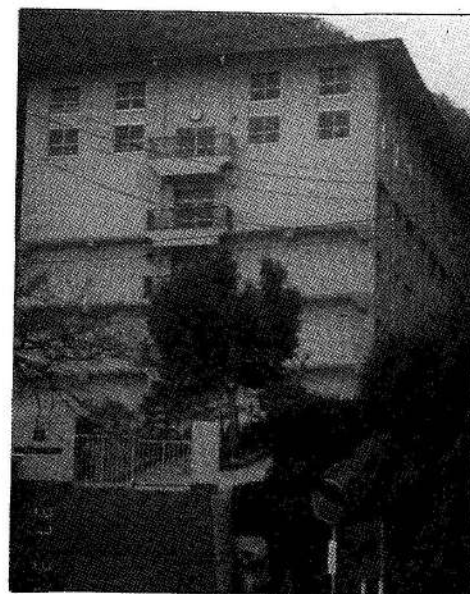


3月定例会、9年度呉市予算案を審議する3月12日から19日まで開かれた予算特別委員会において、谷本誠一議員は連日質問に立ち、市の姿勢を質しました。

市の外郭団体である学校適正規模適正配置推進委員会による、「大冠中学を阿賀中学に統合移転すべき」との報告を受け、局部的に一步一步積み上げていく方式ではなく、全体のスケジュールを明確化し、小中学校の適正再配置を加速させるべきと指摘しました。

少子化に伴う児童数の激減を受けて、ある程度の生徒数がいなければ、子供の集団教育や能力・個性の啓発が鈍化すると言われています。つまり小規模であればあるほど、小学校から中学校に至るまで同じ生徒同士が顔を合わせるにより刺激が少なく、いい意味での競争意識が働きにくくなります。そればかりか、サッカーひとつやるにしても人数が揃わず、クラブ活動等において選択肢が非常に狭められ、ひいては児童の個性を伸ばすことができなくなりがねません。

そこで谷本議員は、根拠条例のない同推進委員会では単なる意見報告に留まり、地元で説明する際説得力に欠け、小中学校の再配置による児童の適正な教育環境作りが遅れることを懸念。行政改革の視点をも踏まえ、同議員も委員となっているが平成5年以来開催されていない小中学校通学区域審議会と、学校適正規模適正配置推進委員会を統合して条例で定め、諮問機関としての答申を出させることにより権威を持たせ、強力に推進すべきだと提案しました。



▲阿賀中に統廃合される大冠中

福祉会館の後利用—在宅福祉・医療の拠点に!!



本通4丁目の旧西保健所が3月24日より、新築の「すこやかセンターくれ」となって装いも新たに再出発しました。これは県の福祉・保健・医療の窓口を一本化させる施策の一環として、呉市としても市民に良好なサービスを提供すべく、保健所と福祉事務所、さらには社会福祉協議会が同居するものです。

それに併せてこれまでの総合福祉会館は、平成9年度の耐震改修工事を受け、来年より1階が老人医療の入浴付きデイケア施設、2階が老人訪問看護ステーション、及び24時間体制のホームヘルプセンターと在宅介護支援センターが入居することになります。

谷本議員は特にデイケアにおいて、福祉のデイサービスで間に合う老人が安易に利用し、医療保険財政を圧迫することのないように注文をつけました。

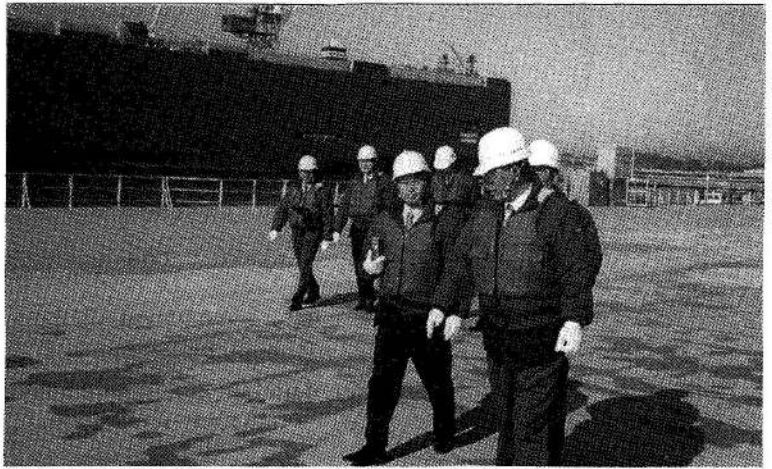
▲デイケア施設に衣替えする福祉会館

マリノポリス特別委員会・視察

広湾にメガフロートを誘致し、外貨埠頭を!!

1月23日、谷本委員は呉市会・マリノポリス対策特別委員会視察団の一員として、横須賀市沖にあるメガフロート実験施設を訪れました。

メガフロートとは超大型浮体構造物のことで、海に浮かべて埠頭施設や空港、住宅まで様々な活用が見込めるため、現在大手造船や鉄鋼会社が組合を設立して研究中です。埋め立てに比べコストが低く、環境に与える影響が少ないと言われており、耐用年数は百年以上です。沖縄の米軍普天間飛行場のヘリポート移転代替施設として橋本首相がその可能性を言及したことにより、21世紀へ向けた海の建築物としてにわかに脚光を浴びて来ました。



▲横須賀市沖・実験メガフロート上の谷本委員 (中央)

広湾は呉湾より水深が浅いため、その弱点を補うのにメガフロート誘致構想が急浮上。誘致場所については、呉湾の場合自衛隊や大手会社が占有しているため、将来東広島呉自動車道と連結する上で物流の位置的に有利な広湾が最適と考えています。しかも大手造船や鉄鋼会社を有する呉市としては、その建設にも有利な条件を兼ね備えており、何万トン級の外国大型船が入港可能な埠頭として利用することにより、産業の活性化はもちろんのこと、西瀬戸内圏の中格的な貿易港湾としての発展が見込まれます。

教育経済委員会・視察

学校余裕教室の基準明確化と福祉への活用を!!



▲空き教室を高齢者福祉に転用した川越市の小学校

昨年7月16日から17日にかけて、谷本委員は呉市会・教育経済委員会視察団の一員として、学童数の減少に伴う余裕教室の活用法を探るため、東京都中野区と川越市を訪問しました。

呉市では余裕教室の活用策として、二河小学校を改修して社会教育施設に転用を図り、緒についたところです。中野区では、小学校の複数の余裕教室を公民館的施設に転用。川越市ではこれをさらに発展させ、本来老人ホームで行っている在宅要介護高齢者のデイサービス施設として活用しています。

ところで呉市におけるデイサービスセンターは、各特別養護老人ホームに委託しており、その分市街地にないため送迎に難があります。呉市版新ゴールドプランである呉市老人保健福祉計画では、現在あるデイサービスセンター11施設を、デイケア施設を含め平成11年までに18ヶ所にする目標を立てているために、老人ホームに代わる箱物の必要性に迫られています。

また谷本委員は日頃より、「各学校が独自に余裕教室を活用するのも、度が過ぎてはならない。呉市が統一的な余裕教室の活用基準を示し、学校教育はもちろんのこと、社会教育から福祉に至るまで、大局的見地から活用法を検討すべき。」と訴えて来ました。それを受けて教育委員会では、実態調査の上近くその基準をまとめ、指針を議会に報告すると回答しています。

広域政策集団「交流」事務局次長に谷本市議!!

昨年9月1日、呉市及び近隣12町の現職市議・町議をメンバーとする広域政策集団「交流」の発会式が呉市内で行われ、発起人の一人であった谷本呉市議は事務局次長に就任しました。

地方分権が叫ばれる中、地域の諸問題を自治体の枠を越えた広域的見地から扱い、政策を立案・提言していく趣旨で、谷本市議の所属する呉市議会・保守会派「市民クラブ」が火つけ役となり、全国的にも珍しい組織が誕生しました。

当面の範囲としては、呉市の他に音戸・倉橋、上下蒲刈、坂・熊野、江能4町、豊浜、黒瀬の各町。呉市の19名を筆頭に、現在会員は65名に上っています。発会式には、会員に加え呉市長・両助役他239名が結集。谷本誠一後援会「誠心会」からは、下采一彦会長を含む5名の幹部が参加しました。



▲呉市及び近隣12町の議員集団「交流」発会式

交流3専門部会を設置

昨年11月30日、交流(中島確会長)は臨時総会を開き、3つの専門部会及び女性会議設置案を了承。各部会に分かれて初の会議



▲各町から真剣な意見が飛び交う交流臨時総会

を持ち、それぞれ正副部会長を選出しました。

専門部会は、福祉・医療、教育・文化、社会参加を扱う「健康・生きがい・ボランティア部会」、自然環境や過疎問題等を広域的に扱う「瀬戸内部会」、そして谷本市議が所属する、安全・危機管理やインフラ整備を国との係わりの中で研究する「国・地域交流部会」の3つです。



▲谷本市議宅に移転が決まった「交流」事務所

谷本誠一役職

- 呉市議会議員
- 改革派保守系会派「市民クラブ」所属
- 教育経済委員会委員
- マリノポリス対策特別委員会委員
- 「六でもない会」(新人議員の会) 会員
- 呉市土地開発公社理事
- ◎呉市建設公社理事
- 呉市都市計画審議会委員
- 呉市国民健康保険運営協議会委員
- 呉市社会教育委員会委員
- 呉市公民館運営審議会委員
- 呉市小中学校通学区域審議会委員
- 呉市清掃審議会委員
- 呉飲食組合顧問
- 呉市広吉松地区土地区画整理事業
- 組合設立準備委員会顧問
- 広域政策集団「交流」事務局次長
- 呉市日韓友好協会会員
- 天皇を広島へお迎えする県・市民の会
- 設立発起人会呼びかけ人
- 曙自治会顧問
- 呉三津田26回同期会幹事
- 江小第1期同窓会事務局長
- 日本将棋連盟呉将棋愛好会支部事務局長
- 呉将棋愛好会師範(四段)・学生会主幹
- 谷本誠一将棋教室講師

議員1周年・谷本誠一市政報告会に160名!!



▲保守系の議員では、ただ一人市政報告を怠らない谷本議員

昨年4月21日、誠心会は谷本誠一市政報告会を、議員就任1周年を記念して開催。本通小学校体育館に160名を集め、初の報告会にもかかわらず大盛況となりました。

この中で谷本議員は、市営バスの累積赤字が雪だまの如く増え続けていると指摘。しかも市民の税金を食いつぶした上、売却する資産も底を

ついてしまったため、このまま指をこまねいては必ず経営に行き詰まることを喝破。この危機的状況から脱出するには、民営化をも視野に入れた外部の審議機関を早急に設置し、検討を開始すべきだ、と訴えました。そのほか、ごみの減量化を促進するには資源物の体系的な分別収集を市全体で早急に取り組むべきだと強調。そのかいあり、市は9年度から段階的に資源物の9分別収集に踏み切ることであります。また、鍵っ子対策としての放課後児童を預かる留守家庭児童会においては、同和地区の子と地区外の子とを区別することなく、一本化するべきと意見具申。過度な同和地区対策は差別意識の溝を深めかねないとの懸念を示しました。

吉浦、昭和地区でも市政報告会!!

谷本議員は、昨年7月28日吉浦集会所に34名を集めて、また11月21日には昭和公民館に33名を集めて市政報告。いずれも下采一彦誠心会会長と新田集同会幹事長が会場に赴き、挨拶しました。

吉浦地区では、特にJR呉線複線化の状況について説明。235億円もかかる複線よりも、行き違い新駅を新設することで、21億円で同様の効果を創出する手法が得策とし、狩留賀と坂町水尻に新駅を設置し、唯一行き違いになっていない単線の川原石駅を行き違い複線化するために、現在よりも5百メートル広島寄りに移設する計画であることを披露しました。

また昭和地区では、県道呉平谷線の二河トンネル共用後の新ルート策定の方向性と、野間園から焼山北までのバイパス建設の現況、焼山政敵から焼山第二・第三団地、焼山北、及び焼山公園付近を経由して焼山西に降りて来る焼山環状線の構想と計画について報告しました。



▲昭和地区市政報告会で熱弁を奮う谷本議員



▲秋晴れに恵まれた平田観光農園にて

誠心会・親睦行事 三次へりんご狩りに

昨年10月27日、誠心会は前年のみかん狩りに続き、「家族そろって、りんご狩りとバーベキュー!!」を企画。43名が三次市の平田観光農園への日帰りバス旅行を満喫しました。りんごは種類も豊富で大変美味、好評を博しました。